

平成24年 4月7日

プロジェクト報告書

団体名： 特定非営利法人東村山活き生きまちづくり

1. プロジェクト名

ハンセン病に対する正しい知識の普及啓発事業

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字

市民・行政・企業等との協働により地域コミュニティの実現を目指し、まちづくり・人づくり・人権の森の3つの委員会構成でNPOを組織。このプロジェクトは「人権の森委員会」が所管します。国立ハンセン病療養所「全生園」が市内に所在します。ハンセン病元患者は国の誤った施策により強制収容され、人権侵害・感染症として長い間偏見差別をされ続けて来ました。今もその偏見などについて残念ながら残っている中で、次世代を含め偏見・差別・人権侵害を繰り返さないために啓もう、啓発活動をするを目的にします。真如助成事業第3年次目初期の目的に慢心。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

東村山市青葉町に所在するハンセン病国立療養所「多磨全生園」内入所者自治会と協力して、ハンセン病に対する偏見や差別を解決するための交流、抹茶を楽しむ会や文化祭・夏祭り・ひまわり栽培など地域共生の諸事業を展開する等啓発・啓蒙事業に努めました。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

事業の実施に当たりその事業自体が啓発活動の効果を創出するように、地域市民の園内活動、や入所者自治会との共催、東村山行政、教育委員会後援により実施する事業等いろいろな場面に協働思想を導入しました。事例：①療養所多磨全生園入所者自治会主催のお祭り、文化祭などへの参加と役割分担②賑やかコンサート・こだまする人権の森開催・お茶会での茶の湯は初めての体験として喜ばれた。諸事業を通して、地域市民と入所者が共に集うことが出来、貴重な時を過ごした。23, 3, 11の大震災の減災を願って「あの日を忘れない」を、お陰様で発刊することが出来ました。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

23年度「市民活動助成」を受け、諸事業の推進に当たり、内容の充実とそれぞれ事業の高質化を図ることが出来ました。特に、入所者が高齢、他界して行く中で、入所者のふるさとづくりを念頭に置いた諸事業は、大きなテーマであり、急務であります。「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」を踏まえ、さらに市民レベルを中心にした新しい時代への推進が望まれる中で、多様な場面で周知し、啓もう啓発に貢献できました。

6. 参考資料

作成致しました・DVD・発刊しました本につきましては、お陰様で貴重な資料と成りました。なお、主な資料につきましては、既にご高覧願っておりますが、諸事業の写真などにつきましては、この報告者に添付いたします。

主な事業推進報告書：別紙、報告書資料として添付

